



桜、サクラ、さくら

春といえば“桜”。日本人の大好きな花です。咲く前から開花を楽しみにし、つぼみ→咲き始め→満開→散り始めて散りきるまでを愛でます。平安時代の和歌にも頻出するくらい、日本人の桜好きは歴史があります。見るだけでなく花や葉を食べたり、実物だけでなくほかのものに“桜”と名をつけるほど。例えば・・・

【桜色】…白をごく淡く紅で染めた山桜の色

【桜もち】…薄く焼いた皮であんこを包み塩漬けした桜の葉で巻く“長明寺”（関東）と、蒸した米であんこを包み桜の葉で巻く“道明寺”がある

【桜肉】…馬の肉

【桜紙】…和紙を漉き返し再生した薄い紙。遊里のちり紙として使用されていた

【桜鯛】…桜が咲くころ旬を迎える、瀬戸内の真鯛



あなたの周りに“桜”はいくつありますか？

イエローラベルって、なあに？

図書館のたたみスペース横のコーナーに行ったことはありますか？そこには、中学生以上、大人未満の方々にオススメしたい本が並べてあります。本の背表紙のラベルは“黄色”。ややサブカルチャー的、でも実は人生で役に立つ本もちらほらあったりして・・・。
ぜひ手にとってみてね★

■■■■ 編集後記 ■■■■

桜の花が散った後、実がなって、サクランボになると思っている人はいませんか？花がさく桜の木と、実がなるサクランボの木は別だそうです。知らずに葉が茂っている桜の木の下で、サクランボを探していたら、虫が落ちてきて驚いた過去の自分に教えてあげたい・・・。

YELLOW LABEL

イエローラベル通信
spring

鹿島市民図書館 2019.3.15発行 vol.72



◇新着本◇

『SF ショートストーリー

傑作セレクション 時間篇』

日下三蔵：編 汐文社

星新一・筒井康隆・小松左京…。日本のSFを切り拓いた作家たちの作品は、SFにとどまらず、現代文学、ライトノベルに至るまで広く深い影響を与えている。主に昭和の時代に発表されたSFの名作を、テーマ別に紹介。日本SFの歴史や、各著者のプロフィール、代表作なども丁寧に解説する。



『願いごとの樹』

キャサリン・アップルゲイト：作

尾高薫：訳 偕成社

わたしはレッド。この町をずっと見守ってきた樹齢216年の木だ。ある日、引っ越してきたばかりの移民の少女が枝に願いごとを結びつけた。それを知ったわたしは、初めて人間に話しかけることにした。米国ニューベリー賞受賞作家による、思いやり、友情、希望の物語。



編集・発行：鹿島市民図書館 TEL0954-63-4343

図書館HP <http://www.library.city.kashima.saga.jp/>

◇新着本◇



『ことばハンター』

飯間浩明:著 ポプラ社

「やばい」も「ガチ」も「ハンパない」も実は全部、国語辞典に載っているんです。

こうしたことばはどのように辞書に掲載されるのでしょうか？現代日本語を追いかけて奮闘する国語辞典編纂者のちょっと変わった日常を描いた“お仕事ノンフィクション”。

『天皇制ってなんだろう？』

宇都宮健児:著 平凡社

天皇や皇室には基本的人権が保障されてない？生前退位ってどんな意味があるの？私と天皇制ってどんな関係？歴史と世界を踏まえて根っこから知り、一人ひとりが「この国の主人公」として考えるための入門書。



ライトノベル 入リマシタ！

『この素晴らしい世界に祝福を！』

暁なつめ:著 KADOKAWA

『ノーゲーム・ノーライフ』

榎宮祐:著 メディアファクトリー

『ソードアート・オンライン』

川原礫:著 KADOKAWA

紹介本の情報の全部もしくは一部の複製（コピー）を禁止します。
本の表紙掲載は、出版社の許諾を得ています。

ヤングコーナー

H30 年度 貸出ベスト(小説)

1. 『異世界居酒屋「のぶ」』 シリーズ

蟬川夏哉:著 宝島社

2. 『本好きの下剋上』 シリーズ

香月美夜:著 TOブックス

3. 『八男って、それはないでしょう！』 シリーズ

Y.A:著 KADOKAWA

4. 『真夜中の電話』

赤川次郎:著 汐文社

5. 『未来のミライ』

細田守:著 KADOKAWA

6. 『青の王』

廣嶋玲子:著 東京創元社

7. 『異世界転生騒動記』 シリーズ

高見梁川:著 アルファポリス

8. 『薬屋のひとりごと』 シリーズ

日向夏:著 主婦の友社

9. 『5分後に意外な結末』 シリーズ

桃戸ハル:編著 学研プラス

10. 『自分コンプレックス』

みうらかれん:著 金の星社

